

従業員の安全と健康を確保するためには、安全衛生に関する法令を守るだけでなく、各社・各店舗で自主的な安全衛生活動を展開する必要があります。

その安全衛生活動をより効果的に進めるために、「誰が」「何を」「どこまで行うのか」を決めた安全衛生計画を立て、安全衛生委員会（衛生委員会）の議論を通じて PDCA サイクル（P:計画－D:実施－C:評価－A:改善）を回して、安全衛生管理のレベルアップを図りましょう。

この資料では、安全衛生委員会（衛生委員会）の中で PDCA サイクルを回すための安全衛生計画の実施項目の立て方を解説し、その例を示しています。これを参考に各社・各店舗で安全衛生水準を向上させましょう。

●実施項目の立て方 ※添付・安全衛生計画を活用

実施項目には「課題解決型」と「行事实行型」と言われるものの2種類あります。PDCA サイクルという観点からは、「課題解決型」の項目が重要ですが、安全衛生活動を進める中では「行事实行型」の項目もあるべきです。以下の資料を参考に設定してみましょう。

1. 課題解決型

職場の問題点を洗い出し、“職場のリスク低減”などの「課題」を1年（あるいは1年以内の期間）かけて解決を図るために設定する項目です。設定の手順は以下のとおりです。()内は設定手順がPDCAのどれに該当するかを示しています。

- ① (P)前年度もしくはこれまでの災害、安全衛生上の問題点、従業員からの要望を踏まえ「課題」を見つけ、その課題をどのようにしたいのか安全衛生目標を定めます。安全衛生目標は、達成の度合いが把握できるよう出来るだけ数値化してください。
- ② (P)その目標を達成するために実施すべき事項を決定し、具体的に何を行うのか実施事項内容を決定します。
- ③ (P)それぞれの実施事項をいつ、誰が行うのかを設定します。出来るだけ次年度計画の作成時期までに終了するようにしてください。
- ④ (P)計画は安全衛生委員会（衛生委員会）で検討し、実施事項等について従業員の意見を反映させたものとしてください。
- ⑤ (D)毎月の安全衛生委員会（衛生委員会）で進捗確認を行います。進捗に遅れが生じていたり、目標未達の可能性がある場合は、挽回策等の対策を図ります。実施した事項は必要に応じて記録を作成し保存してください。
- ⑥ (C)実施事項の評価を行います。効果的だったのか、そうでなかったのか、反省点はないかなど振り返りを行います。
- ⑦ (A)評価に対する改善策を安全衛生委員会（衛生委員会）で検討し、次年度の計画に反映させます。

【課題解決型 実施例】（《》内の数字は上記設定手順の番号）

- ・ある店舗で昨年の夏季に熱中症が3件発生した。

→ 【目標設定】熱中症発生件数ゼロにする《①》

- ・目標達成のための実施すべき事項を以下のとおり決定する。《②、③》

※熱中症の頻発時期である夏季に対策がとれるよう、開始時期を適宜調整する。

2～3月：店長が熱中症になった労働者が発生した作業場をリストアップ《⑤》

4～5月：各部門チーフがリストアップした作業場のリスクの見積りとリスクレベルの決定《⑤》

4～5月：各部門チーフが5管理に沿って対策を検討《⑤》

6～9月：各部門チーフが検討した対策の実施、残留リスクの対応（10月になっても熱中症リスクの高い暑熱職場があれば対策を継続）《⑤》

[5 管理対策の例]

（ア）作業環境管理：スポットクーラー設置

（イ）作業管理：こまめな休憩勧奨

（ウ）健康管理：作業開始前の点呼、上司による体調確認

（エ）労働衛生教育：リーフレット配付

（オ）総括管理：WBGT 値測定

10～11月：各部門チーフが対策の評価を行う。《⑥》

店長が熱中症発生件数が減少したかどうか確認。《⑥》

（ア）目標を達成できた場合 ⇒ 次年度以降も継続《⑦》

（イ）目標を達成できなかった場合 ⇒ 取組が不十分だったと思われる点について対策ごとに改善を検討《⑦》

- ・WBGT 測定の実施要領（場所、頻度）を見直す

- ・スポットクーラー設置場所、台数等を見直す

- ・休憩場所の空調設定状況の確認、交替要員の確保

- ・体調確認の実施要領（体調チェック表の導入）

- ・リーフレットではなく就業形式の教育の導入 など

上記を検討したうえで、次年度の対策に反映させ、引き続き件数ゼロを目指す。

随時：災害発生状況を鑑み、職場のリストアップ、リスクレベル決定、対策の検討、対策の実施を行う。《⑤》

2. 行事实行型

職場の課題や季節等を考慮して月毎に実施する「行事」を決めて実行します。年間を通してPDCAサイクルを回すというものではありませんが、季節に合ったテーマ（熱中症、インフルエンザ、花粉症）や特にその月に啓発したいテーマを選定することで、効果的な安全衛生活動を行うことが可能です。

“月毎のテーマ例“

- 1月 ・転倒予防
- 2月 ・花粉症対策
- 3月 ・切創予防
- 4月 ・安全衛生に関する基礎知識（職場での労働災害が多いものの説明：転倒、腰痛等）
- 5月 ・交通事故を含めた通勤災害の予防
- 6月 ・熱中症予防・食中毒対策
- 7月 ・ハラスメント対策
- 8月 ・ヤケド予防
- 9月 ・ストレスチェック／メンタルヘルス対策
- 10月 ・腰痛（動作の反動・無理な動作）予防
- 11月 ・インフルエンザ／感染症予防
- 12月 ・今年の安全衛生に対する取組結果及び来年の安全衛生目標

なお、行事实行型でも各テーマの中でPDCAサイクルを回すことは可能です。ここでは「安全衛生に関する基礎知識の教育」をテーマにPDCAサイクルを回す例を紹介します。()内は設定手順がPDCAのどれに該当するかを示しています。

- ① (P)前年度もしくはこれまでの災害、安全衛生上の問題点、従業員からの要望を踏まえ、教育を行う「安全衛生に関する基礎知識」を定めます。
- ② (P)教育の効果を測る手段（教育後のアンケート、テスト、感想文）を検討し、可能であれば、どの程度の効果まで望むか、その目標を定めてください。また、その目標は達成の度合いが把握できるような出来るだけ数値化してください。
- ③ (P)計画は安全衛生委員会（衛生委員会）で検討し、実施事項等について従業員の意見を反映させたものとしてください。
- ④ (D)該当する月に実施します。
- ⑤ (C)②で決定した教育の効果を測る手段で、効果の有無を評価します。
- ⑥ (A)評価に対する改善策を安全衛生委員会（衛生委員会）で検討し、次年度の計画に反映させます。

〇〇年度 安全衛生計画

店舗名

〇〇店

店長

□□ □□

日付

2024. 3. 30

【全社方針】

①

②

③

【全社目標】

①

②

③

前年度の概要(全社)

・労働災害の発生状況:休業災害〇件、不休災害〇件

・熱中症の件数が増加(2件→5件)

・

・

・

【実施内容】

重点実施事項	実施事項内容	実施目標	責任者	実施目標スケジュールと実績把握(上段:計画/下段:実績 ○:実施を計画、●:実施済)												実績評価
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
店舗のリスク低減 (熱中症災害の摘出と低減を目的としたリスクアセスメントの実施)	熱中症が発生した作業場のリストアップ	-	店長	今年度(前年度)熱中症発生作業場のリストアップ ●リストアップ完了												課題解決型の 実施例
	リスクの見積りと取り組みリスクの決定	全部門で実施(全職場漏れなく)	部門 チーフ													
	リスク低減策の検討	挙げられたリスクについては全て対応	部門 チーフ													
	リスク低減策の実施と評価	"	部門 チーフ													
	残留リスク対応	必要に応じて追加対策を実施	部門 チーフ													
	対策の評価	実施した対策の効果を全て確認	部門 チーフ													
	熱中症発生件数の確認	-	店長													
安全衛生教育と職場自主活動の実施	月次重点テーマ実施	教育の実施と職場としての対応事項実施	店長	安全衛生委員会の中で教育実施、職場で実践(別紙参照)												行事实行型の 実施例